



一昭和医科大学歯科病院の理念一

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1TEL 03-3787-1151(代表)
いっちごいちホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

楽しく食べて、楽しく生きる

口腔機能管理科 診療科長・教授 古屋 純一

「オーラルフレイル」という言葉を耳にしたことはありますか？

オーラルフレイルとは、口の機能が元気な状態（健口）と、明らかに低下してしまった状態の間にある「衰えはじめ」の段階のことで、ささいな機能低下が重複した状態を意味します。オーラルフレイルを放置すると、全身の筋力低下や、将来の要介護認定リスク、死亡リスクが上がるのが最近の研究からわかっています。口は消化管や気管の入り口でもありますから、全身の健康長寿のためには口の健康が大切なのです。

口の健康を守るためには、大きく分けて2つの方法があります。

1つ目はオーラルフレイルの予防です。歯や義歯で噛み合わせをしっかりと守り、口の機能を高める指導を受け、毎日の歯ブラシと同

じように毎日の口の機能維持に取り組むこと。そのためには、50歳になったらまずは口腔機能低下症の検査を受けておきましょう。

2つ目は口腔機能低下との共生です。たとえ病気や加齢で口の機能が落ちてしまっても、それをきちんと受け入れながら、楽しく生きること。歯科治療や食事の工夫などの、さまざまな方法で多面的にアプローチすることで、口の機能を最大限引き出すことです。その結果、食事のストレスを少しでも減らし、食べる喜びを保つことができるかもしれません。

「楽しく食べて、楽しく生きる」。そのために、私たちは予防と共生の両方から皆さんの口の健康をサポートします。



オーラルフレイルチェックリスト (OF-5)	回答	点数
自身の歯は何本ありますか	0～19本以下 = 1点	
半年前と比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい = 1点	
お茶や汁物等でむせることがありますか	はい = 1点	
口の渇きが気になりますか	はい = 1点	
普段の会話で、言葉をはっきりと発音できないことがありますか	はい = 1点	

※合計2点以上あてはまる場合 →オーラルフレイルの可能性が高いので、口腔機能管理科で口腔機能精密検査を受けましょう



- P1 楽しく食べて、楽しく生きる
- P2 診療科紹介：口腔機能管理科
- P3 新入職員 ご挨拶
- P4 部署紹介 歯科技工室、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：口腔機能管理科

口腔機能管理科 講師 大澤 淡紅子

口腔機能管理科は、全身疾患やご高齢の方の心身の特性を踏まえながら、義歯治療をはじめとする高齢期の専門的な歯科治療に加え、「食べる・話す」といった「口腔機能」を総合的に評価・管理する診療科です。

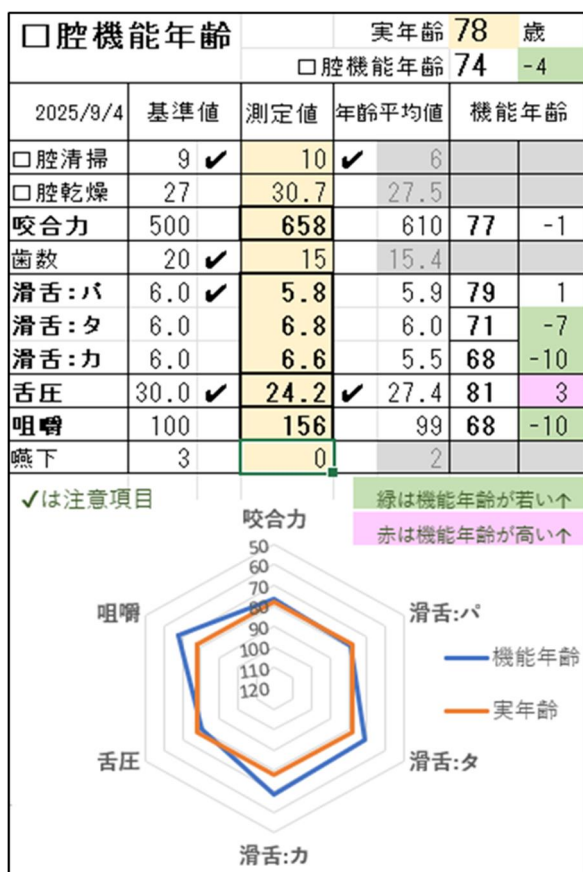
口腔機能は、むし歯や歯周病で歯を失うことによって低下するだけでなく、加齢や使わないこと（廃用）、さらには脳血管疾患・神経疾患・認知症などの全身の病気によっても衰えます。こうした変化を見逃さず、早期に発見し改善につなげるため、当科では口腔機能低下症の検査や、オーラルフレイル（口のささいな衰え）のチェックを行い、患者さん一人ひとりに合わせた治療や生活指導を行っています。

診療の大きな特徴は、全身疾患や高齢期のライフステージを踏まえた「統合的な口腔機

能管理」です。特に「食」に関する機能、すなわち口腔衛生や口腔乾燥の状態、歯の数やかみ合わせ、舌や唇の動き、咀嚼（かむ）・嚥下（飲み込む）の機能などを詳しく評価します。その上で、長年の実績をもつ総義歯を中心とした義歯治療に加え、摂食嚥下リハビリテーション、食事内容や食形態に関する専門的な食支援を組み合わせ、日常生活の質（QOL）の向上をめざしています。

さらに、昭和医科大学附属病院全体における口腔ケア・口腔機能管理を統括し、急性期から回復期、生活期まで、医科との密な連携を活かした包括的なサポートを行っています。また、近隣にお住まいで当科をかりつけとされている方が通院困難になった場合には、施設や在宅への訪問診療も地域の歯科医院や他の専門外来と協力して実施し、継続的な口腔機能の管理を可能にしています。

私たちは、高齢者が生涯にわたり「食べる喜び」を保ち、健康で豊かな生活を送るためのパートナーでありたいと考えています。壮年期から高齢期まで、外来と訪問の両面から、義歯と口腔機能の専門家として地域の皆さまと共に歩み、一人ひとりの「その人らしい生活」を支えてまいります。



お口年齢シート



口腔機能管理科スタッフ

新入職員 ご挨拶

本年4月より、昭和医科大学歯科病院小児歯科に入局いたしました小野優佳です。

子供たちの大切な成長期に関わる小児歯科の仕事に携われることに大きな責任とやりがいを感じております。

お子様にとって歯科病院は緊張や不安を感じやすい場所かもしれませんが、少しでも「またきたい」と思ってもらえるよう、安心できる雰囲気作りを心がけ、笑顔で通院していただけるよう努力してまいります。

また、一人ひとりの気持ちに寄り添い、丁寧で思いやりのある対応を大切にしながら専門知識の技術の向上にも励んでいきたいと思っています。

お子様や保護者の方々に信頼される存在となれるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

小児歯科 助教（歯科） 小野 優佳

本年4月より、昭和医科大学歯科病院補綴歯科に入局いたしました、山森庄馬と申します。

補綴とは、むし歯や外傷、加齢などにより失われた歯の機能や審美性（見た目）を、入れ歯やかぶせ物、ブリッジなどの人工物を用いて補い、生活の質の向上を目指す治療分野です。

4年間の大学院生において、補綴治療に必要な知識と診療技術を体系的に学び、実際の

臨床に活かせるよう研鑽を積んでまいりました。今後は、患者さん一人ひとりの生活背景やお気持ちを大切に、安心して治療を受けていただけるよう努めてまいります。

これからも臨床・研究・教育の全てに真摯に取り組み、地域医療の発展に寄与できるよう力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

補綴歯科 助教（歯科） 山森 庄馬

本年4月より、昭和医科大学歯科病院インプラント歯科に助教（歯科）として入局いたしました、水谷優花です。

臨床研修時、インプラント治療を行った患者さんから「海苔が噛み切れるようになって嬉しいわ」という言葉を伺い、噛む力を回復させ、患者さんに幸福感を与えられるインプラント治療の魅力を改めて実感しました。

インプラント治療は、残っているご自身の健康な歯が噛む力で傷まない様に守ってくれ

る利点もあります。

患者さんの口腔内の状態から本当に必要な治療は何か、さまざまな選択肢をしっかりと比較検討し、丁寧な説明を心掛けています。疑問、不安な事は何でもご相談ください。

人の役に立ちたいという原動力を大切に、真摯に向き合い、患者さんの人生を豊かにするお手伝いができるよう精進して参ります。よろしくお願いいたします。

インプラント歯科 助教（歯科） 水谷 優花

部署紹介：歯科技工室

歯科技工室 責任者 各務 信幸

歯科技工室は、3階に設置されており、矯正専門の歯科技工士2名を含む全9名が在籍しています。

歯科技工士って何？と思われる方もいらっしゃると思いますが、国家資格を有し当院の先進的な医療を提供し、高度な専門性を持つ17の診療科そして昭和医科大学の特徴でもあるチーム医療に貢献すべく歯科診療のサポートをさせていただいています。

具体的には、お口の中の歯を削ったり、型を取ったりしたものに対して、歯科医師の指示のもと、患者さんにとって最善となるよう相談しながら、銀歯・白い歯・入れ歯・歯を動かす装置・スポーツマウスガードなどを製作しています。

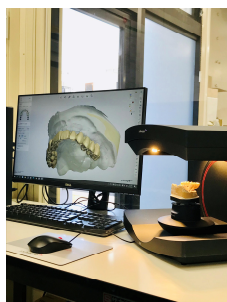
特に最新かつ最先端のデジタル歯科技術を導入し、いろいろな分野で活用されている

CAD/CAM技術を駆使しながら高品質なジルコニア（白い歯）や、インプラントの上部人工歯部を製作し、「しっかり噛める・おいしく食べる」「より自然に・より美しく」など、患者さんの不安や悩みを取り除き、日常生活が豊かになるようお手伝いをさせていただいています。

また、歯科技工士業界の活性化や優秀な人材育成を目的とし、新東京歯科技工士学校の専攻科生（有資格者）が高度な技術を身に付けるよう臨床実習も行っています。

お口の健康と美しさにおきまして、患者さんの身になっての製作を目指しています。

各分野において専門性の高い認定技工士も在籍していますので、疑問・要望などございましたら担当歯科医師を通してお気軽にご相談ください。



歯科技工室スタッフ

編集後記

今年の夏も暑かったですね。今年の夏は平年よりも2.36度も平均気温が高く、観測史上最も高かったそうです。まだまだ日中は熱中症の対策が必要な日が続くと言われています。年々残暑も厳しくなっております。引き続き熱中症など体調に気を付けてお過ごしください。

(K.Y)

